

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議は全て公開することを確認 ・ 議事録の作成方法について、要約方式、委員名無記名とし、委員長の承認により確定することを確認 ・ 傍聴人 1 名 <p>議題（1）諮問</p> <p>第 10 期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に係る諮問の手続を行った。</p> <p>議題（2）第 10 期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について</p> <p>資料 1 に基づき、第 10 期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について説明を行う。</p>
委員	<p>説明内容について、介護サービス事業者の視点から意見を述べたい。</p> <p>まず、「資料 1 - 2 令和 7 年度所沢市高齢者福祉・介護実態調査の結果概要」の 2 ページ目「（2）自分が認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいですか。」及び「（3）自分が認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけると思いますか。」という問いについて、基本的に住み慣れた地域で暮らし続けたいと思っているものの、実際に自分が認知症になった場合に住み続けられるかと聞かれると、事務局の説明のとおり、回答に差異（ずれ）が生じてしまう。この調査結果の分析については、現場の実態と変わらない分析だと思う。差異が生じていることについては、事業者としても、相談・援助等を実施していく必要があると思った。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>続いて、4 ページ目「（6）在宅における介護保険サービス事業者の選択にあたり、なかなか見つからなかったサービスにチェックを付けてください。」については、市民は介護保険料を支払っておりサービスを利用したいが、現在、介護人材不足によってケアマネジャーや訪問介護事業所が選びづらい状況である。</p> <p>こういった介護人材不足の問題については、保険者や介護事業所内でも改善していきたいと思っている。</p> <p>ただ、介護人材確保という点では、介護報酬の単位が大きく響くところになるため、今回の国の補正予算や来年度の介護報酬改定の動向を見ていきたい。</p> <p>また、施設サービス事業所であっても居宅サービス事業所であっても、処遇改善加算をはじめとした様々な介護報酬の加算を取得し、職員の待遇改善を図っているが、加算はそれぞれ定められた細かな要件を満たす必要がある。</p> <p>そのため、介護事業所全体としても介護保険課とともに、研修会を実施しており、所沢市内の介護事業所全体が加算の条件を満たすことができるような環境を整えていき、ケアマネジャーと訪問介護事業所もしっかりと市民の方がサービスとして選べるように人材を確保していきたいと思っている。</p> <p>続いて、5 ページ目「（7）あなたはケアマネジメントの質を確保しつつ業務負担軽減を図るためにはなにが最も重要だと考えますか？」という設問の結果について、「法定外業務の明確化」つまり、シャドウワークという話であり、ケアマネジャーは、利用者から様々な要望を受けるが、その要望の内どこまで対応すればよいかという点で、悩ましいものとなっている。ケアマネジャーは利用者の日常生活を支えることが大事だが、その日常生活範囲の判断は困難であり、ケアマネジャーが利用者のもとに行った際や帰る際に、ついでに何かしてほしいなどの要望を受けることもある。</p> <p>特に、頼れる身寄りがいない人に対する支援は非常に難しい。現場のケアマネジャーは頑張っているが、頑張れば頑張るほど自分がやらないといけないこと以上のこともやることになってしまう。</p> <p>国においても、シャドウワークの範囲を決めるといった話もあるため、それらを参考にしながら、ケアマネジャーがやるべきこ</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>とと、業務外の頼まれごとがあるならば、それを誰に引き継げば利用者のためになるのかといったところを考えていき、改善していきたいと思った。</p> <p>続いて、10ページ目「（3）特別養護老人ホームへの入所に関する設問」について、この設問は、分析の仕方によってはミスリードを招く設問で、「あなたは個室と多床室のどちらに入りたいですか。」と聞くと大体の方が個室に入りたいと言う。ただ、実際にどちらかに入るとなった際に、個室は個室料金がかかる旨を伝えると、大体の方が多床室を選択される。そのため、所沢市の分析は現場に合った分析がされていると思う。</p> <p>また、多床室だとプライバシーが保たれないのかという点、中には半個室で、プライバシーが保てるようなところもある。</p> <p>実際に入所するとなった場合は、料金を考慮される方が多いため、今後、特別養護老人ホームを整備していく際に、個室と多床室のどちらを整備したほうが良いのかという施策の分かれ目になるため、良い分析だと思う。</p> <p>続いて、「資料1-3 基本指針の構成について」の6ページ目「基本指針の記載事項について」について、「頼れる身寄りがいない高齢者の相談対応等について、総合相談支援事業等に位置付けることを明確化。」という記載がある。</p> <p>近年、配偶者がいない方や子どもがいない方が増えており、生活様式が変わってきている。身寄りのない方などの多岐にわたる生活上のニーズをケアマネジャーのケアマネジメントのみで支えようとするとならばシャドウワークに繋がりがやすすいことから、現在、国においても審議されており、所沢市においても計画に盛り込んでいくとのことなので、そうやって取り上げることで、頼れる身寄りがいない方たちが安心でき、実際に支援する介護事業所側もシャドウワークが減るということになる。そういった点で、令和7年度所沢市高齢者福祉・介護実態調査の結果概要、計画策定に向けた基本指針について、合理的な説明をいただいたかと思うので、骨子案を示す際に、今回の説明をしていただけると、市民の方及びサービス事業者側も安心できるのではないかと思います。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>「資料1-2 令和7年度所沢市高齢者福祉・介護実態調査の結果概要」の5ページ目「資料1-2 特別養護老人ホームへの入所に関する設問」について、分析いただいた内容についてはその通りであり、現場の状況を反映しているものであることは理解した。</p> <p>ただ、現状のニーズに対して施策を打ち出していくと思うが、施設を整備していく中で、何十年も使用され続けていくとなった際に、どうなるのかという視点も必要かと思う。</p> <p>次期計画に反映するか否かはともかくとして、そういった視点も外せないと思うため、意見を共有させていただいた。</p>
事務局	<p>長期的なニーズについても必要だと考えているため、そういった視点も含めて、計画を策定していきたいと思う。</p>
委員	<p>「資料1-2 令和7年度所沢市高齢者福祉・介護実態調査の結果概要」の1ページ目「1 調査の概要」について、ケアマネジャーの回収率が、前回は「88.0%」で、今回が前回と比較して「12.5%」下がり、「75.5%」となっている点や配付件数94件に対して、回収件数が71件で13件の未回収がある点について、こういった結果になった理由があれば教えていただきたい。</p> <p>また、正しい答えを出すためには、より多くの回答が必要と考えるが、ケアマネジャーは、とても多忙と聞く中で、調査の時期が年末年始となっており、実施時期は前回と同じなのか。</p>
事務局	<p>調査の実施時期については、前回と同様である。</p> <p>また、回収率が下がった理由については、こちらも把握できていないところである。3年後に同様の計画の策定を進めるにあたっては、回収率の向上に努めていきたい。</p>
委員	<p>調査の間18、19、20について、無回答の方が2割程度いるが、なぜか。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>要介護高齢者には施設入所をされている方も調査対象者として含まれていることから、回答ができなかったものと考えられる。</p> <p>議題（3）地域包括支援センターの運営状況について</p>
事務局	<p>資料2に基づき、地域包括支援センターの運営状況について説明を行う。</p>
委員	<p>以前は、地域包括支援センターの職員の配置状況について、足りていないところもあったが、今回、全ての包括で充足したのは良いことだと思う。</p> <p>については、地域包括支援センター職員の不足はないという認識で良いか。</p>
事務局	<p>条例上必要な職員の人数について不足はないが、契約上必要な人数については不足している地域包括支援センターは、2つある。</p>
委員	<p>山口地域では、1～2週間に1人程度、外出先から家に帰れなくなってしまう方がいる。近所の住民の間でも「あの人がいない」など話を聞くことがある。</p> <p>山口地域は、少し歩くと東京都であり、椿峰や地蔵峰など周りを山々で囲まれていることから、迷い人の放送の音量を大きめにしてほしいと伝えたりしている。</p> <p>また、家族からガードレールを伝って帰るように言われた方がいるなど、家に帰るにあたって目印がないなどの問題もある。地域住民が、あの人は誰なのかをもっと分かるようになれば良いが、それもなかなか難しい。</p> <p>こうしたことを理由に、高齢者が外に出られないのは辛いと思うので、山口地区のまちづくり推進協議会から5万円の交付について承認をいただいて、民生委員を退任した方などでグループを作って、みんなで散策やスポーツをしたりしている。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>こうした地域づくりがとても重要であるため、認知症になったらどういったことになるのかといった寸劇を作るなど、高齢者が楽しく過ごせるような取組もやってほしい。</p> <p>また、最近、地域包括支援センターの職員が、地域の高齢者の方の手伝いをしてくれるようになった。</p> <p>こうした噂が周りにも広がっていき、地域の若い方が高齢者の手助けをするといい風になっていくといいと思う。</p> <p>このように、山口地域では限られた予算の中で、地域を盛り上げている。皆様においても、何か良い意見があれば言ってほしい。</p> <p>介護予防支援の実施状況について、「委託」と「自前」となっているが、委託の割合が一番高いのが、三ヶ島第2地域包括支援センターで「77.9%」、一番低いのが富岡地域包括支援センターで「22.3%」という状況であり、委託の割合が極端に違う。</p> <p>その理由が、自前で処理しきれないためやむを得ず委託しているのか、別の理由なのかを教えてください。</p> <p>また、地域包括支援センター職員数一覧について、富岡と山口の地域包括支援センターが契約上の人数を満たしていないとのことだが、人数を満たしていない理由が職員の負担割合と関連しているのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>まず、1点目の委託率については、一概に委託しないとケアプランに関する業務が回らないという理由で委託をしているわけではないと思われる。地域包括支援センターは、ケアプランの作成以外にも、地域共生システムの土台となる機関の役割を担っているため、生活支援体制整備や認知症施策の推進などを行っていく中で、ケアプランが多くなってしまうと手が回らなくなってしまうので委託することはある。</p> <p>そのため、委託率が高いところと低いところがあることについては、業務負担の関係によるものなのか、他の業務に力を入れているからなのかは、各地域包括支援センターによって異なる。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>したがって、委託率が高いからケアプランの作成に余裕がない、委託率が低いから余裕があるといったわけではないと、認識している。</p> <p>また、委託率については、半年に一度、各地域包括支援センターのセンター長と当市の担当者として細かい打合せをしており、他の業務や事業とのバランス状況を確認しているところである。</p> <p>ただ、ケアプランの多さで、地域共生システムに関する事業が滞りがちであることは、ここ数年の課題であるため、どのように委託に出していくのか等については、当市もサポートしながら一緒に考えていく必要がある。</p> <p>その中で、三ヶ島第2地区については、現在のセンター長が前職でのつながりを活かして委託できているところもあり、委託率が高くなっている。</p> <p>また、2点目の山口と富岡の地域包括支援センターについて、業務負担が多いから、契約上の人数を満たしていないのかという質問については、地域包括支援センターの職員の中には、福祉職の経験がある方もいれば、若手の方や子育て世代の方もいるため、離職の理由は、必ずしも現場の業務が負担だからというわけではなく、ライフステージの変化などの理由もあると認識している。法人内での人事異動も含めて、検討いただいているところであるため、配置人数の不足が解消するよう引き続き対応を求めていきたいと考えている。</p> <p><u>議題（4）第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和7年度進捗評価について</u></p> <p>事務局 資料3に基づき、第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和7年度進捗評価について説明を行う。</p> <p>委員 評価表3ページ目の特定健康診査の受診率について、暫定値で「30.3%」とのことだが、まだ、受診率が高くなる見込みはあるのか。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	直近の受診率については、「37.2%」である。
委員	昨年度の受診率は、どうだったのか。
事務局	昨年度の確定時の受診率は、「38.1%」である。
委員	がん検診との合同健診は、保健センターにて実施したのか。
事務局	保健センターで実施した。
委員	直近の受診率が「37.2%」とのことだが、この割合の分子と分母は何なのか。
事務局	分母は、特定健康診査の対象である「所沢市国民健康保険に加入している40歳～74歳の方」である。
委員	対象者は何名か。
事務局	現時点の確認では40,301人である。
委員	<p>評価表2ページ目「介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者数」について、実績値が目標値を下回ったが、参加者数は342人増加したとのことだが、つまり減少した人数の方が多いということか。例えば、通いの場の存続や後継者問題などで減少することもある。</p> <p>したがって、今後、目標を立てていく際に、高齢者人口の自然減少や亡くなる方、通えなくなる方の人数なども考慮して、目標値を設定していく必要があると思う。</p> <p>そのため、減少した人数についても把握していれば教えていただきたい。</p>
事務局	通いの場の数については、令和7年度目標値に対して、実績値が1か所プラスになっているが、施策への取組み状況に係る自己評価欄に記載しているとおおり、廃止する団体もあるということ

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>は、今後、目標値を算出するにあたって必要な視点だと感じている。</p> <p>また、現在活動している団体については、年齢の関係で参加者の入れ替わり時期になっており、担当としても、廃止する団体と新たに立ち上げる団体は、ほとんど同数である感覚である。</p> <p>団体の規模縮小などの課題もあるが、団体に残っていく方にとっての居場所の存続に向けたサポートとして、若手の担い手が入るような生活支援コーディネーターによるマッチングや地域資源の開発、地域資源人材の発掘をシニア・アカデミー等と合わせて、引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>今後、身寄りのない方も増えていくと思われるため、通いの場がどれくらいその方たちの支えになるのか、各地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが調査しながら苦勞していると思われる。人数が減ってしまう団体の傾向や増えている団体の傾向などの統計をしっかりとって、継続していくための補助金やツールなど、傾向を見ながら有効に活動できる方法など有効な分析をしていき、今回の報告内容を計画に反映して行ってほしい。</p>
事務局	<p>議題（5）地域密着型サービス事業者の指定等について</p> <p>資料4に基づき、地域密着型サービス事業者の指定等について報告を行う。</p>
委員	<p>（質疑応答なし）</p>
事務局	<p>議題（6）報告事項等</p> <p>資料5に基づき、令和8年度所沢市地域包括支援センター運営方針について説明を行う。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	(質疑応答なし) 閉会